

道徳科における個別最適な学びと協働的な学び

1 テーマ設定の理由

平成 30 年度に小学校で、平成 31 年度に中学校で、「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）が始まりました。教科化という大きな転換期を迎えましたが、道徳的諸価値の理解をもとに、児童生徒が自分の考えを見つめ、話し合いを通して考えを深めたり広げたりする授業を行うことに変わりはありません。私たちは、児童生徒一人一人の学びが深まる道徳科の授業を、児童生徒と教師と一緒に道徳科の学習を創り上げていく実践や児童生徒が自然と考えたくなる気持ちを高める実践などを通して模索してきました。

そのような中、中央教育審議会の『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）では、2020 年代を通じて実現を目指す学校教育の姿として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を挙げ、これらを一体的に充実することが目指されることになりました。また、「次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力としては、（中略）対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力」とあり、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を身に付けていくことも求められています。個々の学びも他者との協働的な学びも大切にしてきた道徳科の授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることによって、児童生徒が今までよりも物事を様々な側面からみられるようになっていたり、自分事として新たな考えや課題を見付けることができるようになっていたりすることにつながると考えます。そうすることを通して、児童生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていきたいと考えました。

そこで本年度は、「道徳科における個別最適な学びと協働的な学び」をテーマとして設定し、研究を進めていくことにしました。

2 「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一体的な充実を目指した指導方法の工夫

(1) 道徳科の授業における「個別最適な学び」の捉え

「個別最適な学び」は、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されます。「指導の個別化」は、「一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進めること」とされています。道徳科の授業においては、例えば、児童生徒の特性に応じた学習となるよう指導方法を工夫することが考えられます。「学習の個性化」は、「個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げることを意味する」とされています。道徳科の授業においては、例えば、一人一人が興味・関心に応じて考えたり話し合ったりできるよう工夫することが考えられます。

(2) 道徳科の授業における「協働的な学び」の捉え

「協働的な学び」は、「児童生徒一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切である」といわれています。

道徳科においては、これまでも、友達と考えを伝え合うことや一つのテーマを基に話し合うこと等、他者と共に学習する活動を取り入れてきました。道徳科の授業において、考えの視覚化や共有ができるような工夫をすることで、異なる考え方が表出する活動を更に充実させることができることが考えられます。

(3) 道徳科の授業における指導方法の工夫

「個別最適な学び」における工夫の例



【指導の個別化】

○ 個々の児童生徒の特性に応じた学習となるような指導方法の工夫

- ・教科書、デジタル紙芝居等から選択した上で教材を読ませる。
- ・自分に合った方法を選んで考えをまとめさせる。
- ・キーワードや補助的な説明などを書いたものから自分にあったものを選んで、考えのヒントにさせる。 など

【学習の個性化】

○ 児童生徒の興味・関心に応じて考えたり話し合ったりできるような工夫

- ・テーマについて興味関心に応じた探究活動やインタビュー活動などを設定する。
- ・児童生徒の興味・関心に応じたグループで考え、話し合わせる。
- ・児童生徒が話し合いたいことを選択させる。 など

「協働的な学び」における工夫の例

○ 考えの視覚化や共有ができるような工夫

- ・タブレットで全員の多様な意見を視覚化し、共有したうえで話し合わせる。
- ・通信機能を使って、友達の考えたものに質問させたり、コメントさせたりする。
- ・プレゼン機能を使って、協働制作（同時編集）に取り組ませる。
- ・役割演技を動画として撮影し、全体で振り返りながら話し合わせる。 など

このような様々な指導方法の工夫を取り入れることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた道徳科の授業を提案したいと考えます。

令和3年11月9日（火） 第5時限（6年2組教室） 指導者 杉浦 弘祥

1 主題 働く喜びとは（C 勤労、公共の精神）

2 主題のもつ魅力について

高学年においては、勤労を尊ぶ心を育てながら、働くことの意義を理解して社会の役に立つことができるようにする必要がある。人間生活を成立させる上で働くことは基本となるものであり、一人一人が働くことよきや大切さを知ることにより、みんなのために働こうとする意欲をもち、進んでみんなのために働くことで、社会に対する奉仕や公共の役に立つ喜びを味わうことができる。

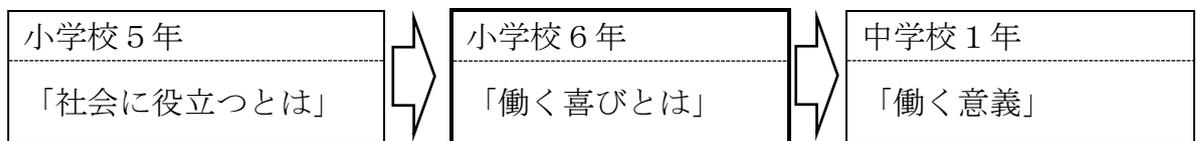
高学年の児童は、学校、家庭、地域など様々な場で働くことを体験しており、働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうことができる場面はたくさんある。しかし、慌ただしく過ぎる毎日の生活の中では、働くことが充実感を味わうことにつながっていないことも多いと考えられる。そこで、社会の中で働いている人はどのような思いをもって働いているのかを考えることを通して、自分や周りの人たち、社会のために働く意義や喜びに気付き、公共のために役立とうとする意欲を高めること、さらには将来の社会的自立に向けて勤労観や職業観を育むことにもつながると考える。

3 取り上げる主題について

(1) 評価について

一面的な見方から多面的・多角的な見方へ	自分自身との関わりの中で深める
<ul style="list-style-type: none"> 働く人たちの思いについて、自分の考えと違う友達の考えを理解しようとし、様々な視点から考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の内容や友達の発表を聞くことを通して、様々な職業に就く人の思いを考えている。そして、どのような思いをもって仕事をしたいかを「自分なら」と自分のこととして捉えている。

(2) 関連する主題



(3) 主題と児童の関係

本学級の児童は、委員会活動や清掃活動など、自分の役割に責任をもって取り組むことができる児童が多い。しかし、自分のしたいことを優先してしまったり、言われた仕事だけを行ったりする実態も見られる。これらの行動から、本学級の児童の多くが、働くことは大切だと感じているが、働くことのやりがいやよきなどの充実感を味わっていない。また、自分から社会や人のために役立つよきに気付き、積極的に取り組もうとする意識にまでは至っていないと考えられる。そこで、本時では、人はどんな思いをもって働くのかという問いをきっかけとして、働くことの意義や喜びに気付き、公共のために役立とうとする実践意欲と態度を育てたいと考える。

4 本実践における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の工夫

(1) 「個別最適な学び」の工夫

① 個々の児童に応じた学習とするために

事前学習Ⅰとして、身近で働く人にインタビューをする活動を取り入れる。インタビューの方法として、聞き取って文章にまとめるか動画で撮影するかは、児童一人一人が選択して取り組むことができるようにする【図1】。

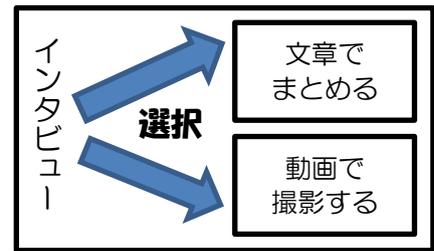
中心発問で、人はどのような思いをもって働くのかを考える際に、タブレット上に提示されたシンキングツール（「ロイロノート」のバタフライチャート）を活用する。バタフライチャートの羽の部分にある付箋をヒントとして考えたり、付箋の中から自分の考えと似たものを選んだりできるようにする【図2】。

授業のまとめをする際にも、このバタフライチャートをヒントにして考えることができるようにする。

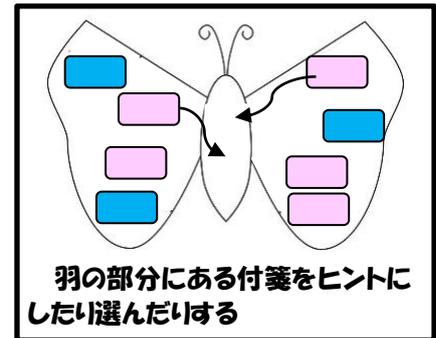
② 児童の興味・関心に応じた学習とするために

事前学習Ⅱでは、資料1（チョコレート開発担当者：宇都宮さんの話）と資料2（気象予報士：関嶋さんの話）の二つの資料を読んだ後、二人がそれぞれどのような思いをもって働いているのかを考え、タブレットの「ロイロノート」の付箋機能にまとめ、提出させる。その際、宇都宮さんと関嶋さんのうち、より自分が興味をもった人を選択してよいこととする【図3】。

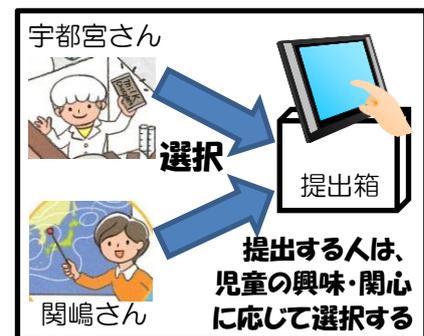
活動2では、他の児童が撮影してきた、身近で働く人のインタビュー動画を視聴したり、他の児童がインタビュー内容をまとめてきた文章を読んだりし、資料中の人物と似ている思いがあるかについて話し合わせる。その際、自分の興味関心に応じて視聴する動画や読む文章を選択してよいこととする【図4】。



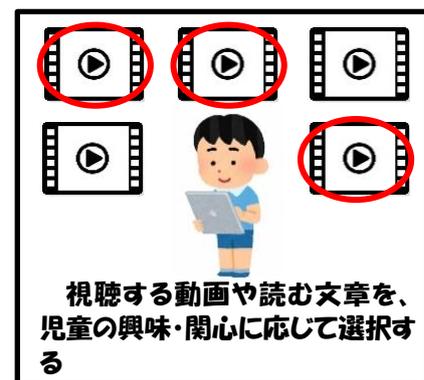
【図1：事前学習Ⅰのまとめについて】



【図2：シンキングツールの活用について】



【図3：事前学習Ⅱのまとめについて】



【図4：動画の視聴について】

このように、個々の児童に応じて選択して取り組むことができる活動や考える際のヒントを選ぶことができる活動、興味・関心に応じて取り組むことができる活動を提供することは、児童一人一人が授業の中で自分の考えを明確にもって話し合いを進めたり、中心発問で考えを深めたりしやすくなることにつながり、本時のねらいとする道徳的価値に迫ることができると思われる。

(2) 「協働的な学び」の工夫

事前学習Ⅱで提出箱に提出された付箋を、タブレット上で見比べながらグループで話し合うことができるようにする。中心発問においても、タブレットのシンキングツール（「ロイロノート」のバタフライチャート）を活用しながら話し合ったり、タブレットの画面をテレビ上で共有したりしながら考えを深められるようにする。タブレットを活用することで、考えが視覚化され素早く共有できることを生かし、児童同士の対話の促進につなげていく。

5 事前学習について

学習活動	指導上の留意点
<p>事前学習Ⅰ 家庭学習として、身近で働く人について調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>予想される「身近で働く人」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族 ・ 親戚 ・ 先生 ・ 習い事の先生 ・ 学校の職員 ・ 地域の方 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近で働く人にインタビューをして、内容を文章にまとめたり、タブレットで動画の撮影をしたりして、働く人の思いについて調べさせる。 ○ 聞き取る際に、「どのような思いをもって働いているか」についてインタビューができるように事前に確認しておく。 ○ 働いている様子が撮影可能であれば、撮ってきてよいことを伝える。 ○ 提出されたまとめや動画を、本時で児童が選んで見るようにしておく。
<p>事前学習Ⅱ 家庭学習として、「教材『働く』って、どういうこと？」の資料1、2を読み、二人がどのような思いをもって働いているのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二つの教材を読み、宇都宮さん、関嶋さんのどちらかを選び、どのような思いをもって働いているのかをロイロノートの付箋機能にまとめ提出箱に提出させる。 ○ 本時で話し合う際に分かりやすくなるよう、付箋紙の最後に自分の出席番号を記入し、誰が記述したものか分かるようにさせる。 ○ 付箋に書く言葉は、できるだけ短くまとめるようにさせる（キーワード化）。 ○ 提出された付箋を、教師がバタフライチャート（左の羽）にまとめておき、本時で児童に提示できるようにしておく。

6 本時の指導

(1) ねらい

人はどのような思いをもって働いているのかを考えることを通して、自分や周りの人たち、社会のために働く意義や喜びに気づき、自分も公共のために役立とうとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名 「働く」って、どういうこと？（出典：光村図書出版）

(3) 準備 教師：タブレット（教師用、児童用）、テレビ、事前の付箋をまとめたバタフライチャート、事前インタビュー動画をまとめた映像、事前インタビューの内容をまとめたもの
児童：事前インタビューの動画やメモ

(4) 指導過程

時間配分	学習活動と予想される児童の様子	指導上の留意点
5分	<p>1 働くことについて考える。</p> <p>【発問】 人はなぜ働いていると思いますか</p>	<p>○ 教科書 P142～143 を開き、社会には様々な職業があることを想像させながら発問する。</p> <p>○ 国民生活に関する世論調査「働く目的は何か」の設問について、「ロイロノート」のアンケート機能を活用して回答させ、テレビ画面で結果を共有する。</p> <p>○ このアンケート結果と、二つの事前学習を通して感じたこととの違いはないか問い掛けたり、教科書 P146 の資料 3 と比べさせたりすることを通して、「人はどのような思いをもって働くのか」について考えてみたいという意欲をもたせる。</p> <p>○ 「学校生活での当番活動はどうか」などと問い掛け、日頃の活動についてどのような思いをもっているのか想起させた上で、本時のめあてを提示する。</p>
<p>本時のめあて：人はどのような思いをもって働くのでしょうか</p>		
33分	<p>2 教材『働く』って、どういうこと?」の資料 1、2 を基に、働く人の思いについて話し合う。</p> <p>(5) (1) 宇都宮さんと関嶋さんがどのような思いをもって働いているのか話し合う。</p>	<p>○ 二つの資料のうち、付箋を提出した方の資料を各自で読ませる。次の活動が教科書の読み取りにならないよう、読んだ後は教科書を閉じさせる。</p>
<p>【発問】 二人はどのような思いをもって働いているのでしょうか</p>		
<p>予想される付箋の内容 (資料 1 の宇都宮さんについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挑戦 ・ 大変 過酷 ・ 使命感 ・ 夢中 ・ 楽しい ・ もっとよくしたい あきらめない ・ 食べてくれる人のため 		<p>○ 事前学習Ⅱで「ロイロノート」の提出箱に提出した付箋を、教師がバタフライチャートの左の羽にまとめたものを、タブレットで提示する。</p> <p>○ 付箋を見比べながら、宇都宮さんと関嶋さんに共通している思いを全体で話し合い、付箋の内容を「自分のため」「周りの人や社会のため」などに分類していく。その際、教師がタブレット上で、付箋の色を「自分のため」を青、「周りの人や社会のため」をピンクに変えていく。</p> <p>○ 全体で付箋の色を変えていく活動を行うことで、周りの人や社会のためになるという思いをもって働いていることに気づかせるとともに、活動 2 (3) のグループ活動につなげる。</p> <p>○ 意見が出にくいときは、「苦労もあるようなのにどうして仕事を続けているのだろう」などと投げ掛けることで、働く思いについてさらに考えさせる。</p>
<p>予想される付箋の内容 (資料 2 の関嶋さんについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一生懸命 ・ 責任感 ・ 重圧 ・ うれしい 喜び ・ 誰かのため ・ 努力がみんなのためになる ・ 見てくれているみんなのため 		

<p>(10)</p>	<p>(2) 事前学習でインタビューした身近で働く人の思いを考え、発表する。</p>	
	<p>【発問】 みなさんがインタビューしてきた身近で働く人たちにも、宇都宮さんや関嶋さんと同じような思いがあるか考えましょう</p>	
	<p>予想される児童の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パン工場 → 食べてもらえる人たちが少しでも喜んでくれるように頑張っている。 ・ 自動車部品製造業 → 車に乗る人が安全に快適に使えるように、繰り返しチェックを行っている。 ・ 経営者 → 自分が今まで幸せにもらった分を誰かに返したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前学習 I で行ったインタビューの内容メモや動画を確認する。 ○ タブレット上で、複数の動画やメモから三つ選んで視聴したり読んだりしてよいことを伝える。 ○ 資料中の二人の人物がもっている働く思いと同じような思いがあるか、という視点を与えることで、一人一人の興味関心に沿って選んだ別々の動画を視聴しても、全体での話し合いが行いやすくなるようにする。 ○ 動画を視聴したり文章を読んだりしたあと、身近で働く人の思いを発表させる。その際、発表された内容を教師が「ロイロノート」の付箋に書き、バタフライチャートの右の羽にまとめていく。
<p>(18)</p>	<p>(3) 人はどのような思いをもって働くのかを話し合う。</p>	
	<p>【中心発問】 人はどのような思いをもって働くのでしょうか</p>	
	<p>予想される児童の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活を充実させたい ・ 大変で重圧を感じている ・ 仕事が好き、楽しい ・ 使命感、達成感 ・ 成長したい ・ みんなのため ・ もっとよくしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バタフライチャートを、テレビ画面とタブレットに提示する。 ○ バタフライチャートの右の羽を見て、身近で働いている人の思いについてグループで話し合い、「自分のため」は青、「周りの人や社会のため」はピンクに付箋の色を変えさせる。その他の分類があれば、グループで考えさせる。 ○ 付箋の色を分ける活動を通して、自分だけでなく周りの人や社会のためになるという思いをもって働いていることに気づかせる。 ○ 人はどのような思いをもって働くのかについて自分の考えを「ロイロノート」の付箋に書き、バタフライチャートの中央に3つまで置かせる。羽の部分にある付箋を移動させてもよいことを伝える。 ○ それぞれのバタフライチャートをもとに、人はどのような思いをもって働くと思うかについて、全体で話し合う。その際、発表する児童のバタフライチャートをテレビ画面で共有する。

7分	3 自分がこれから大切にしたい思いについて考え、発表する。	
<p>【発問】 あなたが働くときに大切にしたい思いは何ですか</p>		
<p>予想される児童の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰かの役に立てるように働きたい ・ みんなに喜んでもらいたい ・ 自分も周りも笑顔になるように働きたい ・ 使命感や責任感をもって働きたい ・ 重圧にも負けずに働きたい 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動2で作成したバタフライチャートを見ながら、自分が働くとき大切にしたい思いを「ロイロノート」の付箋機能を使って文章でまとめさせる。 ○ 手書きでも打ち込みでもどちらでもよいことを伝える。 ○ 作成した付箋を提出箱に提出させることで、提出を終えた児童が他の児童の考えを見ることができるようにする。 ○ 発表をする際は、発表する児童の付箋をテレビ画面に表示し、全体で共有しやすいようにする。 ○ 活動3で書いた付箋は、授業後に印刷して配布し、個々に授業の振り返りができるように道徳ノートに貼らせる。
<p>本時の終わりに期待される具体的な児童の姿・考え</p> <p>最初、働く喜びを感じるのは、「お金をもらうことができるから」と思っていました。今日の授業を通して、働く喜びは、「誰かのために働いている」ということが実感できるときに感じることができると思いました。これからは、学校のために、委員会の仕事に今まで以上に頑張りたいです。そして、学校みんなが笑顔になるように取り組みたいです。</p>		
<p>評価事項</p> <p>自分や周りの人たち、社会のために働く意義や喜びに気づき、自分も公共のために役立とうとする実践意欲を高めている。</p> <p style="text-align: right;">【発言・記述】</p> <p>□… 文章にまとめることが難しい児童には、バタフライチャートの付箋の中から一番大切だと思ったものを選んで、考えの手掛かりにさせる。</p> <p>☆… 早く考えがまとまった児童には、自分の考えと似ているところ、違うところなどを意識して他の児童が提出した付箋を読ませることで、働く意義や喜びについてより考えを深めることができるようにする。</p>		

(5) 事前学習 I ワークシート

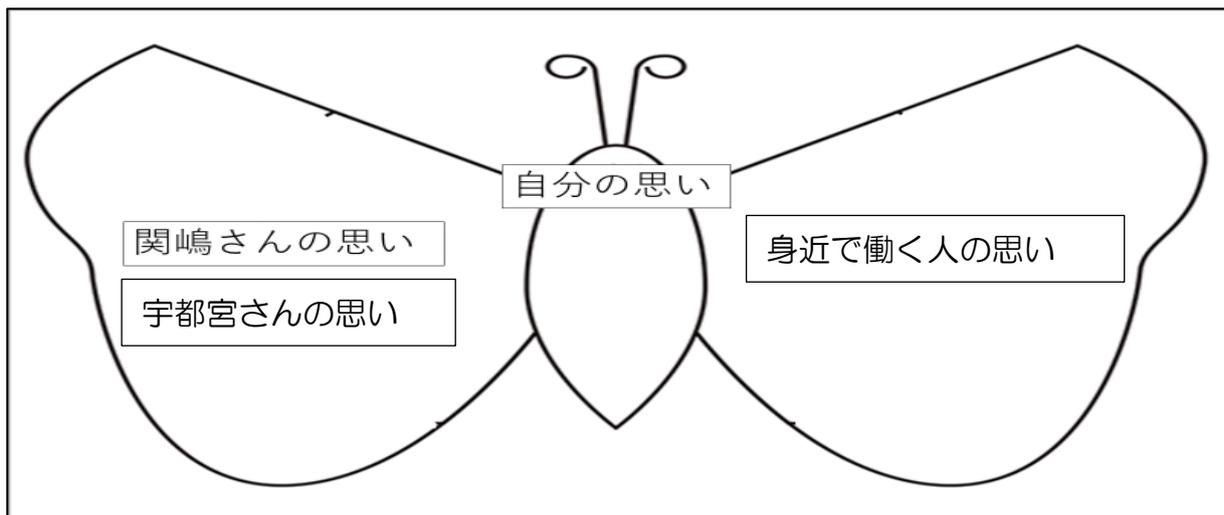
身近で働いている人にインタビューをしよう。

身近で働いている人について調べましょう。家族、親せきなど、みんなの身近で働いている人の働く理由についてインタビューをしましょう。

「どのような思いをもって働いていますか」と質問し、キャスターになりきって、働いている人の思いを引き出しましょう。

聞き取ったことをメモしてもよいし、インタビューの様子を動画に撮ってもよいです。インタビューの前に、授業で使うことを伝えて許可をもらいましょう。

(6) 活用するバタフライチャート



(7) テレビ表示案

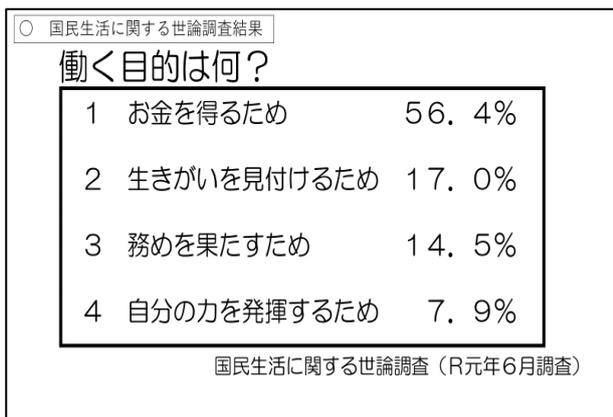
① アンケート表紙



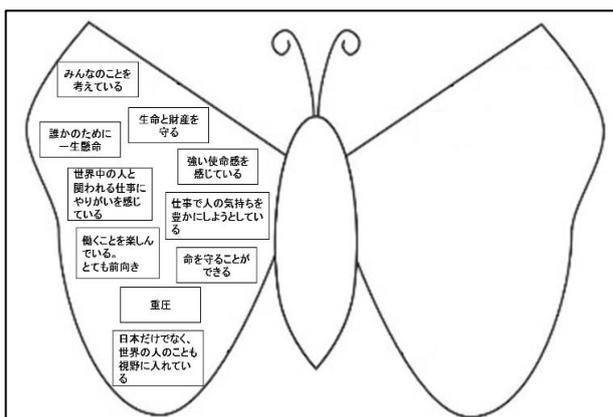
② アンケート結果



③ 国民生活に関する世論調査



④ 事前に作成するバタフライチャート例



(8) 教材文

「働く」ってどういうこと？

教科書P142～P143 様々な職業に就く人々の姿を描いたイラスト

教科書P144 資料1 お菓子会社に勤める宇都宮さんの話

私は、お菓子会社でチョコレートの開発を担当しています。開発にたずさわるチョコは、年間で百種類以上になります。一つの商品を作るためには、いくつもの味の試作品を用意して、何度も試食します。ですから、板チョコ三枚分くらいのチョコを毎日食べ続けています。

チョコ作りのいっぽうで、原料となるカカオ豆についても研究しています。おいしいチョコを作るためには、いいカカオ豆が必要です。そのため、カカオ豆の生産地である中南米、西アフリカ、東南アジアなどに行って、農家に協力を求めました。

現地の農家は決して豊かとはいえず、チョコを食べたことがない人も大勢いました。私は、各農家のカカオ豆で作ったチョコをクーラーボックスに入れて持っていき、味わってもらいました。農家の人たちの大変さを知れば、一つぶのカカオ豆もむだにできません。おいしいチョコを作らなければという使命感があるんです。

お菓子の開発には、味の他に製造法や安全性など、たくさんを確認する必要があります。重圧を感じることもあります。でも、私には、世界中どこでも自分の開発したチョコを味わってもらいたいという夢があります。チョコは、人の気持ちを豊かにします。そんな仕事をできる毎日が、楽しくてしかたありません。

教科書P145 資料2 天気予報士・キャスターの関嶋さんの話

私の仕事は、テレビ番組の気象コーナーで、次の日の天気を予報し、分かりやすく解説することです。

出勤すると、まず、気象庁発表の天気図十種類を分析し、頭の中に数日先までの大気の流れをつかみます。テレビに映る晴れや雨などのマークは気象庁発表のものですが、「晴れ」でも、空の高いところに冷たい空気があれば、急な雨風にもなりやすいので、私の言葉でみなさんにそれを伝えるのです。

気象予報は、すぐ結果の出る仕事です。予報が外れた日は、通勤の電車の中で「今日は晴れるって言ったのに。」なんて会話を聞くこともあります。そんなときは、「次こそは外さないぞ。」と思って、落ちこまずに取り組むようにしています。

以前、関東地方で竜巻が起きたとき、その前日に「竜巻のおそれがあるので外に出ないでください。」と呼びかけました。取材に行った記者が、現地の方に「おたくの番組の天気キャスターが外に出るなど言ったから、出なくて助かった。」と言われたそうです。私は、天気予報は、人々の生命と財産を守ることが第一の使命だと思っています。記者の話聞いて、その使命を果たせたという達成感で、思わず身ぶるいをするほどうれしくなりました。

「みんなが知りたいことを、みんなが知っている言葉で伝える。」これを信条に、仕事を続けています。

教科書P146 資料3 どんなときに、仕事にやりがいを感じますか アンケート結果

出典：光村図書出版『きみがいちばんひかるとき』6年